

単元「脳と心と体とわたしー思春期のトラウマとアタッチメントー」の概要 教材・教具 準備の手引き

はじめに

単元「脳と心と体とわたし」には、思春期ならではの心の揺れを脳機能という視点で理解する活動や、学習者間の話し合いを促進する仕掛けがふんだんに盛り込まれています。この仕掛けの要になっているのが、視覚的に理解を助ける教材・教具の数々です。ここでは、本単元に使用する教材・教具をどう準備すればよいのかご説明します。

※教材データのダウンロードは、下記 URL・右記 QR コードのサイトをご利用ください。

<https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/ikiru/>



各教材・教具の準備

○単元全体で使う教具

ファイル名	準備方法
0-1. 授業用スライド	単元指導案と照らしつつスライドを確認し、授業の準備をしてください。 指導案・スライドについては、先生方の目標や学習者の実態に合わせて変更していただいても差し支えありません。 【教師用】
0-2. 教具集	本単元で使用する教具をまとめたファイルです。ページ指定で印刷するなどしてご利用ください。必要に応じて、ラミネート加工してください。

○第1時で使用する教具

ファイル名	準備方法
1-1-1. ケースワークシート 	日常生活を送る際に働いている脳の部位を考えるワークに使います。 ケースは3種類あります。全部の班に同じ活動をさせることも、各班に自由にケースを選ばせることもできるので、クラスサイズや学習者の実態に合わせてご活用ください。 黒板掲示用は、ラミネートし、裏面に磁石を貼ります。 【必要部数】黒板掲示用：1セット(A3用紙に印刷) 班活動用：各班に1セット(A4用紙に印刷)

1-1-2. 脳カード



日常生活を送る際に働いている脳の部位を考えるワークに使用します。
1-1-1 のケースワークシートと合わせて用いるものです。ケースを読み、働いていると思った脳の部位のカードをワークシート上に置いて、脳の働きについて考えるので、1つのケースにつき、5種類の脳カードが必要になります。(ケースによっては使わない脳カードもあります。)
各班に3種類のケースを考えさせる場合は脳カードも3セット、各班にどれか1つのケースを選ばせる場合は1セット、というようにワークの実施方法に応じてカードもご準備ください。

黒板掲示用は A4 に枠付きの 2 分割 (2in1) で印刷し、ラミネートして枠に沿って切り分けた後、裏面には磁石を貼ります。班活動用は、A4 に枠付きの 6 分割 (6in1) で印刷し、ラミネートして枠に沿って切り分けてください。

【必要部数】黒板掲示用：1 セット (5種類)

班活動用：ケースワークシート1枚につき1セット

1-2-1. 「脳のけが」カード

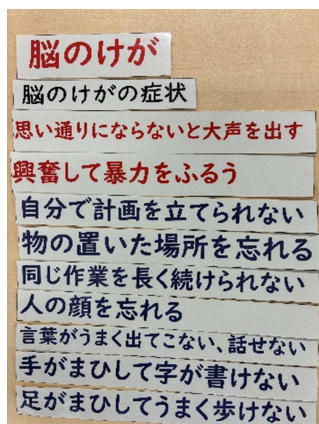


「脳のけが」の状態を視覚化するために用います。イラストと CT 画像の2種類あります。「症状カード (1-2-2)」、「手当てをしてくれる職業カード (1-4)」と同時に使い、脳に損傷があった場合に起こる症状や対策について解説します。

イラストは、黒板掲示用にラミネートし、線に沿って切り、裏面に磁石を貼ってください。CT 画像は、ラミネートし、画像に合わせて切った後、黒板掲示用に裏面に磁石を貼ってください。

【必要部数】黒板掲示用に1セット (それぞれ A4 用紙に印刷)

1-2-2. 「症状」カード

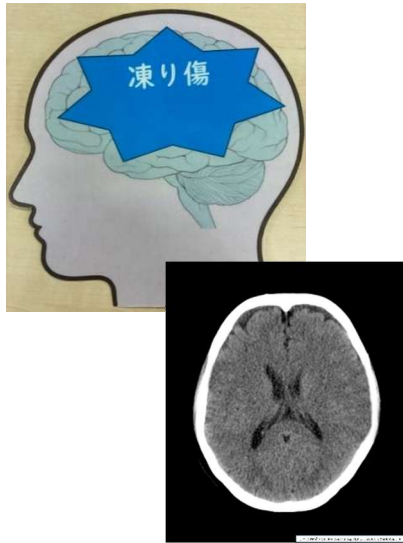


「脳のけが」の症状を説明する際に用います。

黒板掲示用にラミネートし、枠に沿って切り分け、裏面にそれぞれ磁石を貼ってください。

【必要部数】黒板掲示用に1セット (それぞれ A4 用紙に印刷)

1-3-1. 「凍り傷のある脳」カード

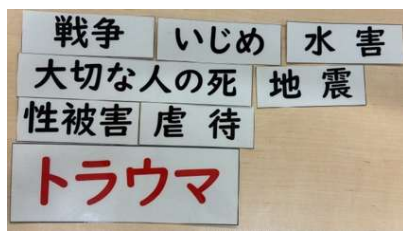


「トラウマ」の状態を視覚化するために用います。イラストと CT 画像の 2 種類あります。CT 画像では一見すると正常な脳に見えますが、実は脳の中で凍り傷がうまれている、ということを示すための教具です。1-2-1 の「脳のけが」と対比的に用いるとわかりやすくなります。「トラウマ要因カード(1-3-2)」、「トラウマ症状カード(1-3-3)」、「手当てをしてくれる職業カード(1-4)」と同時に使い、脳に損傷があった場合に起こる症状や対策について解説します。

イラストは、黒板掲示用にラミネートし、線に沿って切り、裏面に磁石を貼ってください。CT 画像は、ラミネートし、画像に合わせて切った後、黒板掲示用に裏面に磁石を貼ってください。

【必要部数】 黒板掲示用に1セット (それぞれ A4 用紙に印刷)

1-3-2. トラウマ要因

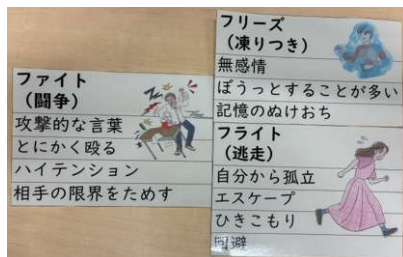


トラウマの要因となる出来事を提示する際に用います

黒板掲示用にラミネートし、枠に沿って切り分け、裏面にそれぞれ磁石を貼ってください。

【必要部数】 黒板掲示用に1セット(A4 用紙に印刷)

1-3-3. 「症状(3 つの F)」カード

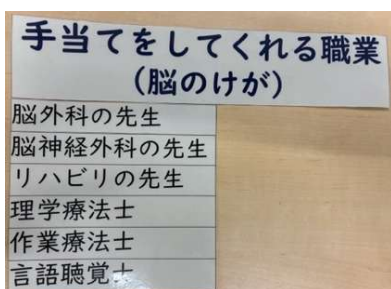


トラウマの症状を説明する際に用います。

黒板掲示用にラミネートし、外枠に沿って切り、裏面に磁石を貼ってください。

【必要部数】 黒板掲示用に 1 セット(それぞれ A4 用紙に印刷)

1-4. 「手当てをしてくれる職業」カード (脳のけが、トラウマ)



「脳のけが」や「トラウマ」の症状が出た際に、対処してくれる人たちがいることを示すのに用います。それぞれの説明の際にお使いください。「脳のけが」の場合と「トラウマ」の場合、それぞれ対応する職業が異なりますので、ご注意ください。

黒板掲示用にラミネートし、外枠に沿って切り、裏面に磁石を貼ってください。

【必要部数】 黒板掲示用に1セット (それぞれ A4 用紙に印刷)

1-5-1. 分類ワークシート

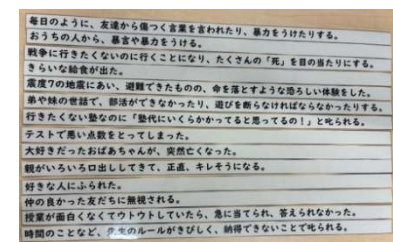
トラウマ	()

「トラウマ」についての導入を終えた後、トラウマと呼ばれるものの内実を理解するために「トラウマかそうでないか」を考える分類ワークを行います。このワークを通して、「トラウマ要因」と「ストレス要因」があることに気づかせることがねらいですので、「ストレス」の部分にどのような言葉が入るかを考えさせるために空欄にしています。

※分類例として挙げているものは、必ずしもこの分類が正しいということを示すものではありません。学習者との対話内容を尊重しながら、分類を進めてください。

【必要部数】 各班に1枚 (A3用紙推奨)

1-5-2. 「トラウマ・ストレス要因」短冊



トラウマ要因とストレス要因の分類ワークに使います。

黒板掲示用、班活動用ともラミネートし、線に沿って短冊状に切り分け、黒板掲示用は裏面に磁石を貼ってください。

【必要部数】 黒板掲示用：1セット (A3用紙推奨)

班活動用：各班に1セット (A4 用紙推奨)

1-5-3. 「ストレス」カード



分類ワーク終了後、トラウマ要因に分類されなかった事例に着目し、それらの事例が「ストレス要因」であることに気づかせます。分類ワーク後の「ストレス要因」の短冊と一緒に提示し、それらが「ストレス要因」であると説明するのに使います。

黒板掲示用にラミネートし、裏面に磁石を貼ってください。

【必要部数】 黒板掲示用に1枚 (A4 に印刷)

1-6. 「症状」カード



ストレスを放置すると「うつ病」のような病気発展することを伝えるために使います。症状が書かれたカードが14種類ありますので、学習者の実態に合わせてご活用ください。

黒板掲示用にラミネートし、裏面に磁石を貼ってください。

【必要部数】 黒板掲示用に1セット (それぞれ A4 に印刷)

1-7. 「症状」ピクトグラム

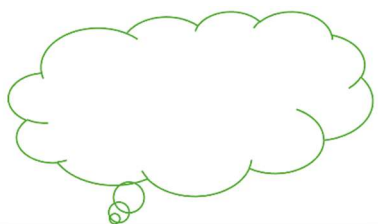


ストレスを放置すると「うつ病」のような病気発展することを伝えるために使います。症状を表したピクトグラムが6枚あります。絵から連想される症状を学習者自身の言葉で表現させるなど、意見を引き出す際にも活用できます。1-6と同時併用したり、どちらかのみ提示したりするなど、学習者の実態に合わせてご活用ください。

黒板掲示用にラミネートし、枠に沿って切り、裏面に磁石を貼ってください。

【必要部数】 黒板掲示用に1セット (A4 に印刷)

1-8. アイデア記入用ふきだし



ストレスを放置すると「うつ病」のような病気に発展するものの、そうならない背景には、無意識に行っているストレス対処方法があります。学習者自身が用いているストレスへの対処方法について考え、記入してもらうための用紙です。記入後、「1人でできること」と「人とのつながりの中でできること」に分類し、それを「レジリエンス」と「安全基地」という概念に置き換えることで、ストレスへの対処方法についての理解を深めます。

【必要部数】 各班/各学習者に1枚

(実態に合わせてご活用ください。)

※本教材・教具は、田中梓先生はじめとする大阪市立田島中学校の先生方によって開発された单元「脳と心と体とわたしー思春期のトラウマとアタッチメントー」の実践を踏まえつつ、普及版として作成いたしました。作成にあたって、様々なご支援をくださった皆様に、感謝申し上げます。

※本教具の作成にあたり、医学書院 堀ロー明様に専門的知見からご助言いただくとともに、脳の部位に関するイラストをご提供いただきました。感謝申し上げます。

※本教材・教具は、SMBC 京大スタジオにおける共同事業「貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える教育アプローチの研究開発と普及」(通称:「『生きる』教育」プロジェクト)の一環として作成いたしました。作成は、下記の者が担当いたしました。

田野茜、飯塚喜久乃、多田理紗子、田原聡美、奥村旅人、山本尚毅、西岡加名恵

※この教具セットに関するお問い合わせは下記までお願いします。

京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター E.FORUM

「『生きる』教育」プロジェクト事務局

〒606-8501

京都市左京区吉田本町京都大学大学院教育学研究科

E-mail e-forum.ikiru@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp